

刊夕日七十二月六

常警毎日新聞

定価 一部金五銭 一月五拾五銭 郵税五銭
廣告料 五部十二字 一行金五拾五銭
日曜祭日の翌日休刊
発行所 常警毎日新聞社
印刷所 常警毎日新聞社

『幼學綱要』について

蘆谷 重松

かくの如き貴重なる來歴をもつ本書が、兎角高閣に束ねられ勝であつたことを近頃批難するものがあり、本書に對する世人の注意が大に喚起せられて、これが復刻も出で、又、聖典放送として放送せらるゝに至つたことは、喜ぶべきことである。しかし、本書が高閣に束ねられ勝であつたことは、理由のない事ではない。けだし、本書は明治の初年漢學の知識の普及してゐた時代の編纂であるから、其の文章は漢文直譯體であり、其の内容も半ばは支那の史傳から採つてあり、甚だしく難解であるから、漢字の力の減退するに伴うて本書が次第に實用から遠ざかつてたのも致し方ないことである。固有名詞の六ヶしいのは致し方ないが、普通の名詞や動詞でも現在用ゐられてゐる模範的な字典、（たとへば榮田猛猪氏の大字典の如き）にも無い文字が、少からず發見せられる程であり、其の文章に至つては又、漢文の特徴である簡潔の妙を極めたものであ

るから、今日、中學校や師範學校卒業の漢學力を以てしては、到底讀みこなし得るものではないのである。近頃の反動主義者には、日本精神と、漢學の知識とを混同し、漢文を讀ませぬから日本精神が衰退したのだなどと穿き違へた議論をするものもあるが、飛んで

★〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
〇明日の献立〇
〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
（朝）味噌汁・さつまいも
小付 海のり
【書】干瓢油揚げ付
【晚】鶏肉くわやき 胡瓜もみ 花かつと

もない話で、其の議論が正しければ支那人は皆日本精神になつてよい譯だ。私は漢文廢止論者ではないが、出來るだけ漢文を節減してそれによる兒童の負擔の減少を、實質的に役立たせたと思ふものである。その意味からして『幼學綱要』を原文のまま今日の人々に讀ませようといふことは、よ

し不可能でないにしても、精力の濫費であり、エネルギーの不經濟であると思ふ。特に少年少女たちにとつては、本書の平易化、通俗化といふことが最も大切であると思ふのである。尚、本書の内容についても述べた

いのであるが、あまり頁を取りすぎるから稿を改めて述べることにしやう。

房總半島から
水郷めぐり
鐵道團體の旅より
有馬 秀子
（有馬醫師夫人）

成田から安房北條へ向ふ途中、八犬傳の伏姫と犬といふ山を見ながら、夕方安房北條に着きました。夜は『落の家』といふ所ど土地の美效連の踊を見物、其席上で、町會議員だといふ六十位のおごひげのお方が藝者と一緒踊つての歡待ぶり一同は感激しました（廿六日安房小湊にて）

× 川崎とく子
驛長さんや、町の旦那様方の御親切さ、團體全部の人々にお土産物まで下さつて、朝の六時發の汽車には停車場へお見送り、北條の方々の外來者歡待は非常なものです、平からの参加者は婦人が多く、釜屋の奥様なども大の御元氣で、皆様の御機嫌麗はしく、無事に旅を續けて居ります。

新發賣一文字帽!!

絶体日焦けせず 雨にも丈夫な
いつも新らしい 實用新案帽
エバー・ニュー・ストロー
四菱編 五〇〇リ
支那麥編 六〇〇リ
お電話次第御覽に入れます
田町通り
電話六五六番

玉屋洋品店

別製氷おた福豆
アイスクリーム あづきアイス ミルクセーキ
クリームソーダ水 氷あづき ソード水色々
冷コーヒー みつ豆
御土産にクリームもなか
平二警察署裏通り
魚清食堂
電話六六三三

魚清食堂

店主が店員
を連れて行く
か れる
正シイ食堂
正シイ喫茶
正シイ酒場
平・田町
レストサロン
電三五二番

木村醫院

平町六丁目橋際
電話三〇九番

熊岡天堂氏

近日世界館へ
説明界の鬼才
懸賞……課題
熊岡天堂解説の映畫は何?
何月何日(本曜日に限る)より公開するか
投票方法
用紙……官製ハガキ、制限ナシ
宛……世界館懸賞係
差出人……住所氏名明記ノ事
ベ切……六月三十日午後九時半抽籤
當籤發表……七月一日世界館前
右の通り當選者多數の場合には厳正なる抽籤の結果左の通り賞を呈す
壹等賞 世界館特等券十枚
貳等賞 世界館特等券五枚
參等賞 普通券五枚
四等賞 普通券三枚
五等賞 普通券一枚
右合計 五十名様
三十二名

大補松齡湯

精神)力減退
陰萎 早漏
神經衰弱
憂鬱 症
記憶力減退
老衰 疲勞
視力減退
價二圓・三圓・五圓、送料十四錢 殖民地二十七錢 嚴封急送
調劑元 福島縣浪江町 松齡堂 田村本家

夏の呉服大賣出し

七月一日ヨリ一七日間
京染 小紋 二・五九
着尺モスリン 二・二〇〇
絹名古屋帯 二・二〇〇
本製絹羽織 七・〇〇〇
三井別染特選柄
ゆかた地特賣
盛夏用京呉服類
大提供
御贈答には御便利な
三井の商品券
三井員募集
小商店員募集

平小鐵道の路線

争奪運動を排撃

來月七日關係町村長が

申合せの協議

平小鐵道の敷地路線に關しては目下鐵道省の實測が着々進行しつつある折柄各方面に路線の争奪運動が擡頭するの形勢を示して居るので斯くては徒らに鐵道省を進展兩難に陥らしめ折角の計劃を延引せしむる恐れのある處から青沼平町長、小野小名濱町長が發起となり來月七日關係町村長を招集争奪の氣運を抑壓し路線の選定を鐵道省の自由裁量に委ねる申合せを行ふ事となつた

戸數割賦課

けふ町會で附議

平町に於ける本年度の特別戸數割賦課額は八萬五千五百圓であるがこの前期分賦課四萬二千五百廿五圓を本廿八日午前十時半から附議した處に依ると此内所得額に依る賦課額二萬五千五百十五圓(課税所得額一圓に付一錢二厘八毛)資産狀況に依る賦課額一萬七千十圓(資産個數一個に付一錢)にて賦課戸數は四千八百五十五戸、是れを平均負擔額の十七圓五十錢を分岐点として分割すれば平均以上が八百八十七名、同以下が三千九百六十八名であるが更に細別して卅圓以上は二百廿一名、卅圓乃至五十圓百七名、五十圓乃至百圓六十

市制財政調査の道草物語(上)

川崎 文治

祇園の見番には、甲地、乙地の區別があつて、此の一力亭には、一流株の揃つて居る甲地の藝妓以外は出入が叶はぬ事など、仲居の前ふれ宜敷くあつて、衣づくの音艶かしく、しゃなり、くちなりと現れたは、三代子、多美子、なを子等、何れ劣らぬ……素人臭い名前

査定方法

特別委員審議

戸數割負擔の各戸別調査は例年通り平町を四方面に分け來月二日より夫々委員會の議に附される事となつたが今年度は資産査定の新算定法を採用する事として特に負擔の公平を期さんが爲め

區長承認

本日(廿七日)町會で

本日(廿七日)町會で左記區長及び同代理の推薦を満場一致承認した
(區長)第一區川角兼吉一、第七區梅原利三郎、第十八區酒井政之助、第十八區岡田千藏、第十八區諸橋敬一郎、同代理)第八區松崎信正、第十二區高根澤長太郎

總會で改選した

郡農會役員

既報本郡農會は本廿七日午前十時から團體事務所樓上に總會を開き幹部役員の選舉を行った結果會長諸橋久太郎、副會長鷲清昇の兩氏

査定方法に關し特別委員會を開いて審議する事となつた

繭市況

(廿六日)

▲四倉市場
白繭二四七貫 最高三圓五九錢 最低三圓 馴三圓四二錢 黃繭一四四貫 最高三圓四三錢 最低二圓八〇錢 馴三圓三五錢

平町人事

△六間門安藤製袋藏氏三男 出 生

の『……』だらりのオー、ピィ、ヨーの踊りがある、われ等一行踊るに一言なかるべからずと、井上代表の都々逸、何んとか、かんとかアで『美人のシジャア枕……』といふのがヤンヤの喝采、京女達、たちまち井上氏に『若旦那』の尊稱を獻ぐ、

の達筆で讀み惜い、舞子の果て迄暗記でスラ、義士の間でも云ふのか、四十七士の木像の飾つてある薄暗い部屋に案内された。小さな木像が香の煙りにくすぶつて、目白押しに並んで居るが、よく見ると、一尻ツビリ腰、それを一座の口惡に『ヤワラでも掛ける氣であんめえ』とひやかされて、我ながらポーツとなつたは、僕も未だ若い、確かに見所がありますよ、

△紺屋町當時内郷村字濱井 場舟山末吉氏と男哲男 西白河郡矢吹町字大和内 芳賀博氏(二四)南町仲島 八(二二)さん

シネマ週報

世界館 市川右太衛門主演『鳴平旅ごも』嵐寛壽郎『時雨街道』早川雪洲 田中絹代『太陽は東より』松竹ニューズ二一〇號
平館 逢初夢子、水久保澄子主演『三つの眞珠』日活特作『武士道』うらもも『海江田譲二』主演『奇偶道中仁義』十五日

東京短期(本日)

新東	寄付	大引	高値	安値
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三
新東	一三三	一三三	一三三	一三三

米

一節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
二節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
三節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
四節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
五節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
六節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
七節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
八節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
九節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇
十節	三〇〇	三〇〇	三〇〇	三〇〇

悪夢からさめぬ

不貞な女の苦悶

情夫と牒し合せて服毒

▽終列車の出来事

昨廿六日午後十一時五十三分平驛着最終列車の中で廿歳前後の婦人がカルモチン自殺を圖つて苦悶昏倒したのを付添ひの

父親が、擔ぎ出し構内警戒中の鈴木平署部長の計らひで高久病院に收容、直ちに應急手當を加へた結果一命は取り止めたが兩名は宮城縣栗原郡藤里村大字大里字下荒町伊藤伍太夫(五)同娘トミヲ(三)で事情を聞けば女は一昨年茨城縣多賀郡助川町字久保田居住日立製作所職工野村仁雄(三)の許に嫁ぎ本年一月よりトミオも製作所に出で夫婦共稼で暮すうち

四月頃 から同じく働く職工の沼田清(三)と夫の眼を忍ぶ割りない仲となり最近夫に感付かれたに拘らず悪夢のさめぬ兩名は去る十七日牒し合せて家出し群馬縣椿名山に登山し情死の場所を求めて徘徊中夫の手配で取押へられ同時に離縁となつたのを却つて幸ひとし再び助川町に舞ひ戻り情夫の沼田と同棲して居た處を昨廿六日朝郷里から

駆付けられた實父伍太夫に實家へ連戻される事になつたので再び兩名は別々に情死を計る約束で互ひにカルモチンを用意し女は同夜九時父と共に助川驛から乗車すると同時に用意のカルモチンを嚥下したものであ

無氣味な

證據物件の數々

植田の仁義及傷事件公判 次回は來月二日

昨廿六日正午少憩後續行された植田町の仁義及傷事件公判は午前中大体首魁荒川又一郎の事實審理を了したのでその乾兒に當る山川倉藏、鈴木末松、富岡乙三の審理について

殺意を否認し「話をつける」というのは暴力を用いるといふ意味でないといふ主張を述べた。被告及び証人の陳述を申聴させたがさすがに地方を震憾させた大事件だけに公判廷に黄昏の色が濃くなつても終らず

明日のラジオ

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「高山彦九郎栗野秀穂」
- 後六、二五 趣味講座「歌舞伎名優の苦心談」三木春雄
- 後七、三〇 講演「六月に於ける明治天皇聖蹟」法學博士尾佐竹猛
- 後八、〇〇 琵琶「龍の口」

唐澤筑瑞

- 後八、三〇 清元「助六曲輪菊」清元壽美太夫 三味線清元榮一
- 後八、五〇 浪花節週間(第一日)「生きる悲哀」東家樂燕
- 後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告

明日の部

- 前六、三〇 實用文講座 服部嘉香
- 前七、〇一 朝の修養「藤田東湖正氣歌」(四)菊地謙二郎
- 前八、〇〇 母の時間「夏と子供の遊び」醫學博士梶原三郎
- 後八、〇五 管絃樂「山の頂上」外 日本放送交響樂團
- 後二、〇〇 家庭講座「生花」兒島文茂
- 後二、四〇 小學生の時間 地理「樺太と臺灣」富士川滋
- 後三、一〇 教師の時間「地方自治の本義」前田

多門

- 後六、〇〇 子供の時間 童話劇「花火」東京放送童話劇協會
- 後六、二五 基礎英語講座 岡倉由三郎
- 後七、三〇 講演「科學界のトビツク」工學博士厚木勝基
- 後八、〇〇 ラヂオドラマ「汽車が来る」小堀誠 藤間房子外大勢
- 後八、四〇 二重唱 歌劇「トスカ」北澤サカエ
- 後八、五五 浪花節週間(第二日)「文七元結」天中軒雲月

昭和人絹の引込線が 竣工試運轉 錦村昭和絹工場は第一期

警女臨時考査 磐城高等女學校では今廿七日から四日間第一學期臨時考査を行ふ

蚊帳行商人の奇篤な行爲表彰 商賣先で聞かされた話に同情して

内郷村字平太郎居住無職佐川重信(五)さん方へ去る十七日午後一名の蚊帳商人が行商に來て世間話の末佐川さんが心臓病で永らく病床にある處へ三人の子供を残して妻に先き立たれ一家は子供等が近所の走り使ひをして貰ふ僅かの口銭で露命を繼いで居る事を知つた蚊帳商人は此の困窮の一家に同情を寄せ六疊用の蚊帳一帳を與へ名も告げずに立去つた事が駐在所員の耳に入

免狀を偽造して... 甲種運轉手に化け 働く傍ら盛んに小鼠泥 舉動不審で捕る

相馬郡飯豊村朝日村字朝日前一三二生れ住所不定自動車運轉手小口忠一(三)は昨廿六日午後九時頃平町長橋地内を徘徊中舉動不審で平署柏木刑事に捕はれ取調べた處同人は五月中平町三丁目芹澤自動車店に雇れ中同僚の腕時計(時價十五圓)を窃取逃走した外餘罪十件の小鼠泥を働き其上道路で拾得した甲種運轉手免狀に自分の寫眞を張つて偽造し甲種運轉手になりすまし平町の各自動車店に雇れて居た事が發覺した

平裁判たより

- △石城郡平窪村大字中平窪字横枕二〇豆腐屋窃盜前科二犯林藤悦(三)が去る二月
- △中同村鶴田廣隆氏方より缺外八点を窃取した外各所を
- △双葉郡川内村大字下川内字宮渡十三自動車運轉助手猪狩千代治(三)假名一無免許にて去る五日午前六時半頃炭鑛用杭を積載のトラックを運轉略式罰金二十圓に處された
- △平職案紹介所報告
- △求人を求める方
- △水配達 二十五迄 尋卒
- △給料面談
- △農夫 三十迄 半給百圓
- △小商店員 十七迄 尋卒
- △月七、八圓
- △外交員 五十迄 高卒
- △給料歩合
- △回職を求める方
- △自動車助手 二十二才
- △尋卒
- △荷揚夫 三十三才 尋卒
- △料理人 二十六才 尋卒



明治太平記

(上巻及上巻)

(作) 寺島樞史

第六十回

洋妾餘情(五)

「かたき? ハ、ハ、ハ、決してわたくし、パークスさんのかたきではありませぬ。唯あなたの美しいその真心がほしいのです」

「ウエルズさん、用意をなさい」

「用意?」

「短刀でも、びすとるでも何でも男らしくお持ちなさい」

「このわたしに持てといふのかね」

「彼はいよ／＼おとわのパークスに寄せる純情をねたましく思つた。それだけに一層愛慾がつのる……」

「この場で決闘です」

「決闘? ……よしなしやいおとわしやん、それ程パークスさんに義理を立てるのと要りませぬよ。おとわしやん」

「つか／＼と取るゝ気色もなく兇器を持つ女の身邊へ寄つて来た。」

「かたき覺悟を……」

「くるしい硬直した感情から吐き出される絶叫! そしておとわは握りしめた懐剣で一突きに……」

「しかし女の手首は外國武

官のおほきな手に無惨にもにぎられてしまった。」「何をなさる? あなたはそれ程までに……」可愛さあまつて……といふ奴だ。さすがに彼は兩眼を異様に輝かしおとわの

「……」彼は子雀を抱きすくめる様にして、くるはしくもがくおとわを壁ぎわの長椅子のところへ連れて行つた。「はなしなしやい、危い」「だ、だまれ! 悪魔」「左様、戀に狂ふて居る悪魔です。わたしの胸のうち苦しさ、察して下さいやい」



彼は力まかせにおとわの右手から懐剣をもぎ取つてしまった。おとわは唯一の武器を奪はれて、もはやこれまでと

眼を射た。「かたき、は、はなせ」おとわは最早や死物ぐるひだ。しかもくるはしくもがきながらも眼前にまづしい姿のうちにも、氣品をかゝしてをる助太刀屋大志賀の面輪をまさに幻影に見た

「ハッハ、ハ、ハ、おとわしやんあんなは未だそんな事

ていよ／＼可憐に思ひおとわの撫肩に、愛慾を超えた感情の手をそつとのせた。」「……」今は、おとわにはかたきのけだものゝ手を取拂ふだけの力さへ失はれてゐた。

「なぜ、もつと早く一突きに出来なかつたものかそんな後悔すらいまはうすれてくやし涙がいつか自責の涙となり、やがて自嘲

遊覽團體募集

一日歸ノ部

柳居津虚空藏尊(猪苗湖)東山白虎隊廻り

出發 七月 六日 午前三時

會費 往復自動車賃 貳圓也

日光 (笠間稻荷様廻り日光六時休憩)

出發 七月 十九日 午前一時

會費 往復自動車賃 貳圓五十錢

一泊ノ部

三原山 東京市内各所遊覽

出發 七月十五日(午前五時)

會費 拾貳圓(但宿泊汽船料及一切含ム)

(各車共定員二十名、定員未滿ノ節ハ勝手手ラ)

(延期スル事モアリマス)

其他御希望ノ各種團體ニモ應ジマス

尼子自動車商會 遊覽部

電話六四〇番

中野齒科醫院

院長 日本齒科 醫學士 中野 惠次
日本齒科 醫學士 西川 誠

平町田町(松月堂向ヒ) 電話 五〇九番

一、齒科一般 保存科補綴科 繼續架
工科 齒列矯正科 小兒齒科 齒槽膿漏科
一、口腔外科 一、レントゲン科

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四一(番)

內科	院長 石山 謙郎 (電話六四一(番))
小兒科	部長 佐藤 尚輔 (電話三七〇(番))
婦人科	部長 五十嵐 雄二 (電話三三〇(番))
產科	部長 藤 尚輔 (電話三三〇(番))
外科	部長 大町 久藏
耳鼻咽喉科	部長 澤 正
皮膚泌尿器病科	部長 前 正
花柳病科	部長 山 謙郎 (電話二七二(番))
X線科	部長 山 謙郎
藥物療科	部長 本 孝平
藥局	局長 鈴木 木寶雄

◎病室完備 入院隨意

吸入用酸素純度 99%

度量衡 モノサシ 體溫計
マ ス 寒暖計
ハカリ 器量計

秤ノ取緒・垂糸・修繕致シマス

關内藥局

電話四〇番

◆寫真材料一式販賣致シマス